

第3回 津島市総合計画審議会議事録

日時：令和3年1月15日（金）

午後2時から

場所：津島市役所5階 第1委員会室

（出席）

江口忍委員、千頭聡委員、三浦哲司委員、伊藤久夫委員、青木啓委員、浅井彦治委員、石原弘乙委員、小出英一委員、小坂井智弘委員、古江俊博委員、安田清時委員、山本達彦委員、横井一雅委員、服部綾子委員

（欠席）

加藤文規委員、佐藤彰記委員、前田明美委員、吉田祐衣委員

【配布資料】

資料1 津島市総合計画審議会委員名簿

資料2 第2回津島市総合計画審議会議事録

資料3 第2回総合計画審議会の主な意見と対応方向

資料4 第5次津島市総合計画骨子（案）修正前

資料5 第5次津島市総合計画骨子（案）修正案

資料6 第5次津島市総合計画（案）将来都市像・まちづくりの目標

1 開会

本日出席委員の紹介

会長あいさつ

（会長）

緊急事態宣言が出たため、会議も手短に進めたい。

それでは、早速だが議事に入らせていただく。

2 議事

（1）第5次津島市総合計画骨子（案）について

（事務局）

資料4、資料5に基づき第5次津島市総合計画骨子（案）について説明

（会長）

修正前と修正案を比較すると、全体的な構成は資料5の裏面に示されており、どういうロジックで計画ができていているのか分かるようになって、前回審議会のご指摘をもとに改善されてい

る。

みなさまから、何かご質問・ご意見があればお願いします。

(委員)

前回の意見を踏まえて修正されていると思う。確認したい点として、修正前の資料では重点戦略を第2期総合戦略としており、修正案も同様だと思うが、国としても総合計画と総合戦略を一体的に策定することとしてよいということか。

(事務局)

ご指摘のとおり、総合計画と総合戦略は一体化していく方向で進めていく。重点戦略は総合戦略として一体として策定していきたい。

(委員)

国の第二期の総合戦略と整合性がとられていることでよいか。

(事務局)

そのとおりである。

(会長)

まちづくりの目標が3つあり、その次に重点戦略がある形で整理されており、どこに力点を置いているかという筋がしっかりと見えるようになった。

基本的には修正案の内容とすることをお願いしたい。

議題2 第5次津島市総合計画（案）将来都市像について、事務局に説明をお願いしたい。

(2) 第5次津島市総合計画（案）将来都市像について

(事務局)

資料6に基づき第5次津島市総合計画（案）将来都市像について説明

(会長)

第2回審議会において、将来都市像については時間を作って議論するという事になった。将来都市像の「住んでよかった」という表現がよいのか、まちづくりの目標が3本建てられたのが適切か、若者に力点を置いている項目が出ている点など、これらのことを踏まえてご意見・ご質問をお願いしたい。

(委員)

2、3はイメージが浮かびやすいが、「1 子育てしやすいまち」は効果測定しにくい内容だがどうやって効果測定のポイントを設定するのか。ターゲットを子育てというライフステージに合わせているが、ライフステージの対象者は妊娠してから子育てのある一定期間となり、

そこにセグメント化しているので対象者は流動的であり、効果測定も難易度が高い。この目標についてどういう点から効果測定していくのか。

(事務局)

まちづくりの目標を実現するために3つ重点戦略を掲げており、目標と重点戦略が対応することとなる。また、重点戦略は分野別計画の中から分野横断的に設定しており、それぞれの分野別計画の進捗状況で効果測定していく。

(委員)

市民にとっては子どもを安心して産み育てることができ、情緒的にも安定した子どもになるような良い教育を行っていくということになる。一般市民にとってはもう少し目先のメリットとして、たとえば津島の教育は何が違うのか、どこがすばらしいのかということをもう少し分かりやすく打ち出せば、たくさんの人に移住してもらえるまちになるのではないかと。目先のメリットも一緒に考えていくといいと感想を持っている。

「3 安心して暮らせるまち」に、自助と公助とあるが、この間にぜひ「共助」も加えていただきたい。災害対策でも、今は「共助」に大きなウエイトが置かれている。共助は市民が自主的に動くものであるが、そのための準備やうまく展開できる仕組みを提供していくことが行政の役割になるので、ぜひ記載してほしい。

(事務局)

見直しをさせていただく。

(委員)

1点目は、重点戦略の項目について、資料6のまちづくりの目標の説明の文面に入っているものもあれば入っていないものもある。たとえば、戦略2の「⑤魅力の発信と関係・交流人口の拡大」については、まちづくりの目標の「2 若い人が魅力を感じるまち」の文面から読み取れないが、文章の意図として重点戦略を全て包含して示すことを意識しているのか。

2点目は、まちづくりの目標が「若い人が魅力を感じるまち」となっているが、戦略は若者に限定せずに「関係・交流人口の拡大」となっているので、戦略2に「若い人」をつけるかどうかといったところは検討すべきではないかと思う。

(事務局)

1点目について、まちづくりの目標を実現するために取り組むべきことについて重点戦略を位置づけている。基本的にはリンクするように記載しているが、魅力の発信についてはまちづくりの目標の文章では読み取りにくいので、記載は見直しを検討する。

2点目について、案ではターゲットを明確にするために「若い人」としているが、ターゲットを絞ることがいいのかどうかといったことについてもご意見をいただきたいと考えている。

(委員)

戦略3の「③地域活動の活性化」についても、地域活動は防災のみではないので、一度全体的に見直しをする際にチェックしていただきたい。

(会長)

資料6にある3つの「まちづくりの目標」の記載が重点戦略の内容を踏まえたものということであるが、ここで書き込み過ぎると読みにくいので、体裁的にA4用紙1枚に収まる分量が良い。私自身はなるべく重点戦略の要素は盛り込みながら、内容は全て入らなくても良いと思う。

「若い人」ということであるが、重点戦略では若い人に関係のないことも記載されているが、「子どもを産み育てやすい環境をつくる」は若い人向けであり、「本市の主要課題」においても子育て世代の定住促進や、若い世代の人材確保について記載がある。若い人が近隣市町村に転出してしまうというのは大きな課題であり、ここを手当てしようと思うと若い人という要素はあった方が良く思う。

(委員)

若者にターゲットを絞ることはよく理解できるが、津島のありようを見た場合、歴史と伝統を育んできたまちということが必ず出ている。そこには若い人のみではなく、ここで生活を確立した中高年もたくさん住んでおり、そこに触れなくて良いのかと思う。

(委員)

将来都市像の文章を分析的に議論するときりが無いと思う。

同時に将来都市像は、他の市町村ではキャッチフレーズとして出てくることが多いが、本来は都市像なので単なるキャッチフレーズではなく、将来都市像を実現するためにはこれとこれが必要であり、さらにそのためにはこれが必要という、全体の目標の頂点に立ってなければいけない。

「未来につなぐ」と「住んでよかったまち」というのは直観では分かるが、「未来につなぐ」というのは何を言おうとしているのかを考えた時に、説明文の中に「そして10年後住んでよかったと実感することができるまちを未来につないでいきましょう」とあり、これをどう読んだら良いかを悩んでいる。10年後にはじめて住んでよかったと実感できるまちになるということでは遅いと思う。また、「未来につないでいきましょう」というのは、10年後にさらに20年、30年後につないでいくという意味なのかもよく分かりにくい。「住んでよかったまち」というところに重点があると思うので、「まちづくりの目標」の中で、「子育てがしやすい」、「若い人が魅力を感じる」、「安心して暮らせる」という3つで「住んでよかった」と思えるということを確認する必要がある。

なぜ目標の2番を「若い人が魅力を感じるまち」ということにしたのか。気持ちは分かるし、他の市町村でも若い人の定住に関することはたくさんある。若い人が魅力を感じるという中身を考えた時に、子育てに関することは1つ目の目標にあり、2番目の目標は働く場や、都市の構造に関することが記載されているが、外から見た視点では、未来につなぐ津島を考えた時に

は、津島のこれまでの蓄積や重みをもっと出して良いと思う。子育てしやすい、若い人が魅力を感じるということは、日本中どこの自治体でも言われている。他の市町村と津島はどう違うのかということ打ち出すことが、結果的に若い人が魅力を感じることにつながるのではないかと。やはり歴史や文化の蓄積は、大きな意味を持つてくる。

自助・公助については、共助をなぜ入れなかったか。これからは公助よりも共助が大事になってきており、大きな災害などでは市役所はあてにせず、自分たちで避難所を運営することなど、共助が必要になる。

(事務局)

共助がないことについては、意図的に抜いたわけではなく、分野別計画の防災・危機管理にも自助・共助・公助としているので追加したい。

(会長)

歴史の重みというご意見や、若い人に対する取組みのみで良いかという意見もあったがいかか。

(委員)

何を未来につなぐのかを示すべきであり、「まちの未来をつなぐためには」と書いてあり、「未来につなぐ」とも書いてあるので、何をどうつないでいくのか。今の状況をつないでいくのかと思った。

まちづくりの目標の文章構成としては、「こうした安心して」、「こうした市内の」という言葉が締めとして使われているが、文章の冒頭に記載したほうがつながりとして良いのではないかと思う。

「3 安心して暮らせるまち」の中に、防犯という考え方は入らないのか。安心して暮らせるためには災害はもちろん、治安という観点もあると思う。

(事務局)

何を未来につなぐのかが分かりづらいとのことだが、住んでいることを自慢できるまちと一緒に育て、住んでよかったと実感できるまちを未来につなげていくという意図で記載しているが、分かりづらいというご指摘であり、修正を検討したい。

また、安心して暮らせるためには防犯や治安などの観点も必要である。

(委員)

基本計画総論に基本フレームがあり、少子高齢化が課題である中で、この基本フレームを実現するための応えが、3つのまちづくりの目標になるのか。たとえば、少子化を改善するための取組については記載がなく、産まれてきた子どもを育てやすいということになっている気がする。少子化対策について、子どもが少ないことをそのまま放置して良いのかということに対しては応えていることになるのか。

高齢社会について、介護に関することはどこかに出てきたのか。福祉の中に入るか。医療を

考えた時にも市民病院のみを考えればいいのではなく、現実の生活で多く関係するのは一次医療である。そのように考えると漠然とし過ぎていると思うが、そのように記載しているのか。

(事務局)

少子化対策は、まちづくりの目標「1 子育てしやすいまち」や重点戦略の「子どもを産み育てやすい環境をつくる」は、産まれた子どもに対することだけでなく、安心して子どもを生める環境を整えることで、子どもの数を増やしていくということも踏まえている。

介護に関することは、戦略3の「①医療・福祉サービス等の機能の確保」が関連する部分となる。

(委員)

これは基本フレームの人口減少や少子化を改善することを踏まえた案か。

(事務局)

そのとおりである。

(委員)

基本計画総論第3章の「土地利用計画」の中でコンパクトという言葉が使用されている。また、まちづくりの目標の「2 若い人が魅力を感じるまち」では、都市機能や生活サービス機能を集約化した拠点整備について記載があり、都市計画マスタープランで議論されたと思うが、津島でのコンパクトシティ化、都市機能と生活サービス機能の集約化の議論は、みなさんの中で集約化した姿について合意が取れているか。

市街地の中にも空き家が出ているが、新しくできる地域や集落の宅地整備という矛盾するような議論もせざるを得ない場合がある。津島の場合は、津島駅を中心として、そこだけに集約させるわけにはいかないような気がする。

この文章では違和感がないが、中身についてそこが大丈夫かと気になった。

(事務局)

策定中の都市計画マスタープランで具体的な内容を議論しており、コンパクト、集約化の方向で議論しているが、津島駅周辺だけを拠点にするのではなく、過去の合併の経緯なども踏まえ、市内をいくつかの地区に分けて集約する方向で検討している。

(委員)

前回、将来都市像の「～未来につなぐ～住んでよかったまち 津島」ということについて違和感があると意見があったが、今回の資料では前回の内容のままとなっている。未来につなぐのに、住んでよかったと過去形となっており、説明の文章は出ずにこの将来像が独り歩きしていくことになる。10年後を想定した時によかったというのは分かるが、この部分は変えるつもりはないのか。

(事務局)

前回ご指摘をいただいたので今回議論していただいている。この案で決定ではなく、ご意見や提案をいただいて決めていきたい。

(副市長)

メインとなる将来都市像は、前回もご指摘をいただき、まちづくりの目標も含めてご意見をいただいて修正する予定である。

このフレーズでは、10年経ってから初めて分かる内容で、津島市に住んでいただきたいということが伝わりにくいというご指摘であった。将来都市像については、検討項目として次回に再び機会を持ちたい。

また、津島の売りは歴史・文化であり、そのフレーズがないのは気になる場所である。そういったものを生かしながら津島市を売り出していく必要がある。

若い人が魅力を感じるまちについても、市民には多様な年齢層がおり、高齢者福祉に関する事なども計画に盛り込んでいるので、市民にとって魅力があるまちというだけでなく、市外の人にも住みたくなるように、市外の人にも魅力があるまちと発信できるようにという内容であり、再度提案する。

(会長)

将来像については、次回についても議論する形か。

(事務局)

事務局から提案もするが、委員からご提案があればいただきたい。

(会長)

委員の皆さん、よろしく願いしたい。

私はこれで良いと思う。「未来につなぐ」の意味は、人によって解釈が違うものと思うが、それでよいと感じる。

まちづくりの目標に関しても、人によって見ているものが違うので、津島の勝負所についての意見も異なるのは当然である。歴史・文化が大事という人がいる一方で、ほかのところも大事という人もあり、全体を一致させるのは難しい。この審議会でも委員によって意見は違うと思う。総合計画は行政計画であり、最後は行政の意見で決めるのが良いと思う。市から案を示していただき、委員が許せる範囲であれば認めていくというのが良いと思う。

議題3に移りたいが、議題3は分野別計画であり、本日と次回の審議会で議論することになるので、章ごとに進めていきたい。

(3) 第5次津島市総合計画（案）分野別計画について

(事務局)

第2回審議会資料5に基づき、保健・医療・福祉について説明

(委員)

「1 健康づくり」は大事であるが概念が広く、9ページの「4 国民健康保険・福祉医療・国民年金」では国保の観点から健康づくりの支援が挙がっており、メタボの特定健康診査のことが記載されている。一方で1ページではがん検診などが記載されており、健康づくりがテーマであれば、国保の内容も含めて「1 健康づくり」に記載してもいいのではないかと思う。

さらにスポーツに関することは2章に入っていることでよいか。健康は概念が広いので、「1 健康づくり」の中にどこまで記載するかを確認しておいた方がよい。

(事務局)

健康づくりは分野が広く、国民健康保険の特定健診やスポーツも広い意味では健康づくりに関係するため、分野横断的に設定している重点戦略においては「戦略3 支え合い安心して暮らせる地域をつくる」の中で健康づくりについて幅広く関連する内容を示しているが、分野別計画では、少し分野を絞って記載している。

(委員)

障がい者と障がいのある人という記載があるが、意図はあるのか。

(事務局)

明確な使い分けがされているかどうか担当課に確認する。

(委員)

子育て支援について、子育て中のお母さんの希望では公園が第一に挙げられており、子どもが健やかに育つ環境づくりにおいて、子ども達が喜ぶような公園の整備を入れていただけるとよい。

(事務局)

公園については、第4章に「5 公園・緑地」という施策があり、分野が横断して関連する部分があるがこの中で取組について記載していきたい。

(会長)

今の回答でよろしいか。

(委員)

了解した。

(委員)

施策ごとにSDGsのアイコンが記載されており、「1 健康づくり」については3番のゴールが記載されているが、内容からはパートナーシップも関わってきそうだが、何を根拠にどういう経緯で検討されたのか。

施策ごとに指標が掲げられているが、全体を見てみるとほかの指標もあってもよいと感じるところもあるし、市の努力でできることと、そうでないものもあるので、指標の設定のプロセスを教えていただきたい。

(事務局)

1点目の関連するSDGsの目標については、施策の方針ごとに169のターゲットのどれに該当するのかを確認した上でそのターゲットに関連する目標を掲げている。

まちづくり指標の設定は、施策のめざす姿の実現のために、効果測定に適した指標を検討して設定している。

(会長)

次の章に進めさせてもらう。第2章と第3章の順番を入れ替えているが、お手元の資料の順番で進めさせていただくので、手元の資料で第2章となっている「産業・環境・市民生活」について事務局より説明をお願いしたい。

(事務局)

第2回審議会資料5に基づき、「産業・環境・市民生活」について説明。

(委員)

バランスの問題であるが、津島市の一次産業従事者がどれだけいるのか分からないが、農業が1つの施策となっており、商工業は雇用、消費者対策と一緒にしている。世の中は経済から成り立っていることを考えると、商工業・雇用に関する内容がこのボリュームでいいのか。

(会長)

順番は慣習的に1、2、3次産業の順番となっていると思うが、市にとってのウエイトで入れ替えてもよい。ボリュームについてのご指摘についてはいかがか。

(事務局)

順番に関しては、これまでの流れもあってこの順番としている。分量に関しては担当課と相談しながら検討する。

(委員)

「6 防災・危機管理」に「自分の命は自分で守る」とあるが、これは非常に無責任な言葉ではないかと思う。

キリンは群れをつくって、みんなでライオンなどから子どもを守ると聞いたことがある。命はみんなで守らなければいけないと思う。みんなで守るから無事に生活できるのだと思う。自分の命は自分でということであれば、市は何もやらなくてもいいことになる。災害が起きた時もみんなで対応すれば助かる場合もある。命はみんなで守るというようにすれば津島らしい感じがする。せめて津島市だけでも、みんなの命はみんなで守ろうということにすべきではな

いか。

(事務局)

施策のめざす姿の中に記載があり、現状と課題でも自助意識の重要性について記載しているが、自助・共助・公助の3つはセットであり、自助の部分が強すぎるかもしれないので、担当課と調整して見直しを検討したい。

(委員)

自助と共助の両方の意識の醸成が必要である。多くの市町村で地区防災計画の策定が進んでいるが、地区防災計画を推進することで、共助の主体となるコミュニティをさらに強めていく効果につながる。災害が起きたばかりの段階では自助が必ず必要となるが、それ以降は共助が必要となってくるので、両方含めて示すようにしてほしい。

(委員)

「2 商工業・雇用・消費者対策」の中に創業支援は入っているが、事業承継に関することが記載されておらず、これから大きな課題となると思うので、入れたおいたほうがいいのではないか。

「3 観光・交流」の中に、「観光協会をはじめとする・・・」とあるが、DMOをめざすのであれば、その点についても記載すべきである。

「4 環境保全」の中に「(3) 地球温暖化の対応策と適応策の推進」とあるが、中身として適応策は入っていないので検討していただきたい。

「6 防災・危機管理」の「(1) 危機管理計画」の中に危機管理計画について記載されているが、BCPを含めた計画が既にあるということでよいか。もしBCPを策定されていなければ、至急作るべきだと思う。

(事務局)

市の業務に関するBCPは各担当で作っており、危機管理課においてとりまとめを行っている。

(委員)

「6 防災・危機管理」において、行政として自分の命を守れない人、災害弱者をどうするのかという視点が抜けている。行政のやることとしては、災害弱者に対する支援について記載しなければならない。

(委員)

「1 農業」の中に「地域の共同活動による施設の維持に努める」とあるが、施設とは具体的に何か。

(事務局)

災害弱者については、施策の方針として、高齢者、障がい者等の避難行動要支援者について行政も地域と連携して取り組むことを記載している。

「地域の共同活動による施設の維持」の施設は用排水路等施設ということであり、住民の理解を得て維持に努めていくことを想定している。

(公室長)

災害弱者に関することについては、先ほどから「自分の命は自分で守る」ということが話題になっているが、大きな災害があった時に避難するのは自分であることから、国もこのようなことを言っているが、地域、公的に行うべきことなどが一緒になって対策を進めることとなることは重々承知している。避難行動要支援者への支援についても記載しているが、少し弱くなっている部分があるので表現を工夫する。

(委員)

1章の「2 地域医療、市民病院」は、テーマが大きすぎるのかもしれないが、行政の立ち位置としては市民病院だけで良いかという感じがする。まちづくりの指標となっている「紹介率」は相手があることであり、相手はどこなのか、相手は大丈夫かということもある。かかりつけ医という受け皿がなければ行かない。またコロナの問題によって分かるように、保健所の役割がなければ回っていかない。市民病院の役割や経営についての記載は分かるが、地域医療としてそれだけでいいのか。連携や連帯ということであり、責任を持つという意味では連帯となると思う。そういう意味で全体がつかめていないのではないか。

指標の「紹介率」や「逆紹介率」というだけで市民病院の役割が果たせるのか。市民病院と地域のかかりつけ医は一体であり、9割近くの人を使用しているのは1次医療機関であるのでこれでいいのか。

(事務局)

地域医療という広い施策についての内容であり、連帯が必要ということについてもご指摘があったので、内容について見直したい。

(会長)

分野別計画の残り3章分の議論は次回としたい。

本日いただきたい意見については、次回、検討結果が資料として出てくると思う。将来都市像についてもご意見をいただいたので、次回は盛り沢山となるがよろしくお願ひしたい。

(副市長)

長時間にわたり熱心ご審議いただき、ありがとうございます。

分野別計画については内容が細くなっているが、具体的に施策の内容が記載される部分であり、まだまだご指摘があると思うが、残りの第3章についてもご意見をいただきたい。

これが津島のあるべき姿の計画書なので、みなさまからいただいたご意見については、十分検

討してよりよい計画にしていきたいと考えるので、引き続きご審議をいただきたい。

3 その他

(1) 第4回津島市総合計画審議会

日時：令和3年2月9日（火）午前10時から

場所：津島市役所5階 第1委員会室